

東邦大学学術リポジトリ



OPAC

東邦大学メディアセンター

タイトル	草地信也教授送別の辞
別タイトル	Farewell Professor Shinya Kusachi
作成者（著者）	斉田, 芳久
公開者	東邦大学医学会
発行日	2019.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 66(1). p.14 14.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	退任記念
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2018 046
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD15596496

草地信也教授送別の辞

齊田 芳久

東邦大学医療センター大橋病院外科

草地信也教授が、平成30年3月31日をもちまして東邦大学外科学講座一般・消化器外科学分野（大橋）の教授を定年退任されるにあたり、教室を代表して心からお祝いと感謝の意を申し上げます。御退任にあたり、御礼の言葉を述べさせていただきます。

草地教授が所属される大橋病院は昭和39年に開院、外科はその後初代の主任教授として故鶴見清彦教授が昭和49年に着任されて開講された医局・講座です。

草地教授は昭和54年にその故鶴見清彦教授の医局に入局され、研修後に主に胸部外科領域を専門とされ、昭和57年に国立がんセンター病院呼吸器診断部に国内留学の後、一貫して大橋病院外科で胸部外科グループの中心として、食道癌、肺癌、その他の肺疾患の診断・治療に活躍されました。平成2年には医学部外科学第三講座講師、平成9年には外科学第三講座助教授、平成12年には東邦大学医学部附属大橋病院呼吸器診断部部长、平成19年には東邦大学医療センター大橋病院肺がんセンター部長に就任され、大橋病院の胸部外科の基礎を築かれたとともに多くの胸部外科医を育てて頂きました。2008（平成20）年4月には東邦大学医療センター大橋病院の5代目の外科教授に昇任されました。その後平成21年には大橋病院がんセンター部長として癌診療に関わる各科をまとめるリーダーとして活躍されました。

平成22年に東邦大学医療センター大橋病院外科主任教授となり、呼吸器外科、上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆外科、乳腺外科、緩和医療、救急すべての指導者を育成し、確固たる実績をあげるに至っております。また平成24年からは東邦大学医療センター大橋病院の院内感染対策室長として、外科感染だけでなく、院内感染の対策にも尽力され、大きなアウトブレイクの発生のない安全な病院にして頂きました。平成24年からは学校法人東邦大学評議員として、また平成27年からは東邦大学医療センター大橋病院の副院長として救急部の改革・育成をなし遂げられ、

現在の新病院の充実した救急部をおつくりになるとともに、多方面から東邦大学医療センター大橋病院の発展・リニューアルに大きく貢献されてきました。

また、診療・学術面では炭山嘉伸教授（現理事長）のもとで感染症とくに外科感染症の研究を開始され、長年にわたり臨床にリンクした耐性菌の発生やその対策・予防に関する基礎実験で多くの論文、および多くの学位論文の指導作成をして頂きました。それらの知見に基づいたMRSAをはじめとする耐性菌やCD関連腸炎の集学的な対策を大橋病院で実践され、多くの施設が治療・対策にやっきになる中、おかげ様で当院での各々の発生率は世界的にも非常に低い数値で経緯しています。またそれらの研究成果や予防のノウハウを詰め込んだ非常にわかりやすくユーモアに富む講義・講演はとて評判で、全国の病院から引っ張りだこで、名実ともに外科周術期感染症学のリーダーとしての地位を確立されました。その功績は広く全国に知られ、第60回日本化学療法学会東日本支部総会会長（平成25年）、第27回日本外科感染症学会会長（平成27年）、第65回日本化学療法学会総会会長（平成29年）など多くの全国規模の学会を主催されました。また平成29年には、日本外科感染症学会の理事長に選挙にて選出され、外科感染症学のトップリーダーになりました。

御退任後は、東邦大学の名誉教授として、また日本外科感染症学会の理事長として、益々ご多忙な日々が続きますが、お体には是非気をつけて頂き、時として教室の外から厳しくご指導頂くとともに、今後のわれわれの成長を温かく見守って頂きたいと思っております。

最後にはなりますが、ここに長きにわたってのご指導と教室へのご貢献に感謝申し上げますとともに、先生のご健康とご多幸を医局員一同、心から祈念いたしております。今後益々の先生のご発展をお祈り申し上げ、送別の辞に代えさせていただきます。本当にありがとうございました。